

単元名 ありがとう いっぱい(1)

配当時間 9時間

単元の目標 (1) 家庭における自分の役割、自分の成長は家族の支えによることなどに気付くことができる。
 (2) 自分が家族のためにできることを考え、行動するとともに、できたことを工夫して友達に伝えることができる。
 (3) 家庭での生活を振り返ったり、家の仕事に挑戦したりして、家庭での生活に関心を持ち、自分の役割を積極的に果たそうとする。

標準的な展開例

01060206_001

【準備等】記録カード（家の仕事調べカード、チャレンジカード、発見カード）等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 家族について話し合い、単元の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 家族の写真です。 みんなが笑顔になっています。 ペットの犬も家族になっています。ぼくの家と同じです。 単元名を見て、家族に「ありがとう」と伝える場面を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 自分の家族に「ありがとう」と言うのだと思います。 家族はいつも仕事や家のことをしてくれるから「ありがとう」だと思います。 わたしのことを育ててくれて「ありがとう」だと思います。 ★にこにこ大作戦を考えよう 家族がにこにこするような活動を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 「いつもありがとう」と言ってお手伝いをしたいです お母さんはいつも夕方になると忙しそうなので、自分でもできるお手伝いを見付けたいです。 家の仕事にはどんなものがあるか発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 家族のごはんを作る仕事です。 洗濯物を干したり畳んだりする仕事です。 <p>2～3 調べてきたことを基に、家族のために自分ができる仕事を考え、「にこにこ大作戦」の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことを基に、家族が家庭でしていることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> お風呂掃除はお父さんの仕事です。 ぼくが学校に行っている間に、お母さんはお買い物に行ったり掃除したりしています。 おばあちゃんが洗濯物を畳んでいます。おばあちゃんは畳み方名人です。 お母さんが料理をしています。わたしはその間に机を拭いたり食器を並べたりしています。 ★にこにこ大作戦の計画を立てよう 自分にできそうな仕事を考える。 <ul style="list-style-type: none"> お父さんと一緒に、お風呂掃除がしてみたいです。 夕方はやる事が多くていつもお母さんが忙しそうなので、洗濯物畳みをしようと思います。 玄関掃除をおばあちゃんがやっているの、ぼくは靴揃えがしたいです。靴が揃っていると気持ちがいいからです。 計画を立て、「チャレンジカード」にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> やってみたい仕事 行う日や時間帯 お手伝いを教えてもらう相手 まとめたことを発表する。 <p>4 家庭で取り組んだことを紹介し、振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P. 96～97を見て、写真に写っているのが家族であることを押さえ、どの写真も笑顔であることに気付かせる。 誰に向けての「ありがとう」であるか問いかけ、どのような場面で伝えるのか考えさせる。また「ありがとう」を伝える機会がたくさんあることに気付かせ、「いっぱい」という単元名に結び付ける。 自分の家族が教科書の写真のように、にこにこするにはどうしたらよいか問いかけ、学習のめあてを提示する。 「ありがとう」と伝える場面を発表したことに加え、教科書P. 96のお手伝いをしているイラストに注目させることで、家族のためにできることを考える単元であることを予想させる。 家族がしていることは、児童が気付いていないものや児童が学校に行っている間のものもあるため、家で調べ、「家の仕事調べカード」に書き込むよう指示を出す。その際、誰がどの仕事を行っているかが分かるような記録カードにする。 <p>【評】学習の見通しをもつことを通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体場で発表させる。 さまざまな家庭生活のスタイルがあることを考慮し、児童が互いの生活を認め合えるようにする。 板書をするときは、「料理」「掃除」「世話」「その他」などの項目に分け、振り返りがしやすいようにしておく。 家族が自分たちのためにしてくれていることがたくさんあることに気付かせることで、家族の温かさや家族一人一人のよさに気付かせたい。そして、自分も家族の一員として何かやりたいという児童の意欲を高める。 お手伝いをしている児童を例に挙げ、本時は自分や家族の役割を考える学習にすることを伝え、めあてを提示する。 事前に家庭に協力を呼びかけ、一人一人が自分の思いを生かして計画を実施できるようにする。 学習の終わりに、できるようになったことを発表することを伝え、継続して取り組みそうなお手伝いを考えるよう促す。 お手伝いを選んだ理由も尋ね、家族のために喜んでもらうために活動することを確認し、児童の意欲を高める。 本時の記録カードは家に持ち帰らせ、次の生活科の授業までにお手伝いをしてもらうように伝える。 <p>【評】自分にできることを考え、計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

(1 回目の実践)

★お手伝いを紹介しよう

- 取り組んだことを伝え合う。
 - ・洗濯物畳みをやりました。きれいに畳めるコツを教えてくださいました。
 - ・お父さんと一緒にお風呂掃除をしました。すごく時間がかかったけど、とてもきれいになりました。気持ちよくお風呂に入れました。
- 取り組んだことや、取り組んでよかったこと、分かったこと、家族に言われたことなどを「チャレンジカード」に書く。
 - ・お母さんが「ありがとう。またやってね」と言いました。次もがんばります。
 - ・お風呂掃除は、上の壁から洗っていくそうです。洗いが分かって嬉しかったです。

5 家庭で取り組んだことを紹介し、振り返りを行う。

(2 回目の実践)

★前回よりレベルアップしたことを紹介しよう

- 取り組んだことを伝え合う。
 - ・自分の体操服や給食エプロンを畳むようにしました。タオルや靴下と違って難しかったです。
 - ・お風呂掃除は、前は大変だと思っていたけど、だんだん楽しくなってきました。

- 取り組んだことや取り組んでよかったことなどを「チャレンジカード」に書く。
 - ・エプロンはなかなか上手に畳めませんでした。袖の部分は、しわにならないように丁寧に畳みます。もっと上手になりたいです。

6 家庭で取り組んだことを紹介し、振り返りを行う。

(3 回目の実践)

★さらにレベルアップした自分を紹介しよう

- 取り組んだことを伝え合う。
 - ・大きな洗濯物や袖のある洗濯物は、畳むのが難しいです。でも毎日やっていたら上手にできるようになりました。今は一人でやっています。
 - ・お風呂掃除がだんだん早くできるようになってきました。やり方を覚えたからだと思います。
- 取り組んだことや取り組んでよかったことなどを「チャレンジカード」に絵や文でかく。
 - ・袖のある洗濯物は、縦に3等分して畳みます。お父さんが「きれいだね。おばあちゃんが畳んだみたい」と言いました。嬉しかったです。
 - ・いつも洗っているお父さんに、洗ったお風呂に入ってもらいました。「〇〇が洗ったお風呂は気持ちがいいね」と喜んでくれました。

7~8 これまでの取組を振り返り、さらに続けていきたいことや挑戦したいことを考え、記録カードに絵や文でかく。

★これまでのお手伝いを振り返り、これから挑戦したいことを考えよう

- 家庭での取組で、続けてよかったことや気付いたことを伝え合う。
 - ・最初はタオルしか畳めなかったけど、今ではシャツも畳めるようになりました。

- さらに続けていきたいことや、これから挑戦したいことを考える。
 - 「自分のこと」
 - ・朝はお姉さんに起こしてもらっているけど自分で起きられるようになります。
 - 「家族のこと」
 - ・〇〇さんみたいに、靴洗いをしようと思いました。
 - 「学校でもできること」

- ・4~5人程度のグループで行う。
- ・靴揃えや洗濯物畳みなどは実践を交えて紹介させ、伝え方を工夫するよう促す。以後も同様に指導する。
- ・宿題以外の場合、自主的に何度も取り組んでいた児童がいたら称賛する。
- ・記録カードは、「よかったこと」「分かったこと」「家族に言ってもらった言葉」の視点で書くように指導する。以後も同様に指導する。教科書P.101やP.120を参考にしてもよい。

- ・記録カードに表情マークを描く欄を設け、そのときの気持ちが振り返られるようにする。
【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・前回と同様の4~5人グループで行う。
- ・前回の記録カードを参考にしたり家族にかけってもらった言葉を想起させたりしながら、前回と比べてできるようになったことや新たに気付いたことなどを発表させる。
- ・自分の成長に気付いたり、友達の発表を聞いて自分とは違う取組のよさを認めたりできるような言葉を掛け、次のお手伝いの意欲を高める。
- ・前時の3つの視点に加え、前回と比べたり新しく挑戦したりしたことも書かせる。

- 【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・前回と同様4~5人グループで行う。
- ・3回目の実践をまとめとして扱い、過去の記録カードと比較して自分自身を振り返られるようにする。

- ・過去の記録カードを読み返し、書かれている内容や表情マークを比較し、自分の中での成長に気付かせる。
- ・友達の取組のよさや共感したこと、感動したことなどを伝え合わせ、児童の自信を育むようにする。
- ・記録カードのかき方は、教科書P.103を参考にしてもよい。

- 【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・本時での計画を基に、一週間程度取り組ませる。
- ・朝の会や帰りの会の時間を活用して、継続して取り組んでいる様子を発表させるなど、意欲が継続するよう指導する。
- ・成長したことや、家族に言われて嬉しかった言葉を想起させて発表させる。
- ・家族がみんなのために家事をして支えてくれていることに気付かせる。
- ・一人一人の取組や気付きを称賛し、今後も自分でできることは続けたい、できることを増やしたいという児童の意欲を引き出せるようにする。
- ・生活習慣や生活リズムを見直すきっかけとしよりよい生活を築こうとする気持ちを高める
- ・「家の仕事」については、これまでの取組を

・体操服や給食エプロンも家で教わった畳み方にしようと思います。

○計画を立て、「チャレンジカード」にまとめる。

9 続けていることを伝え合い、続けてよかったことや分かったこと、家族に言われたことなど気付いたことを伝え合う。

★続けて取り組んでいることを紹介し合おう

○続けていることを伝え合う。

○自分のこと、家族のこと、学校でもできることの3つの中から一つ選び、「発見カード」に絵や文でかく。

・上靴を洗う仕事を新しく始めました。洗面器にお湯を溜めてブラシを使って洗います。自分が使っている上靴が自分で洗えるようになって嬉しいです。

○グループ内で友達の取組のよさを伝え合う。

・〇〇さんは、服を畳むのが上手になったと思います。

・〇〇さんは、お風呂掃除のこつが分かって、どんどん早くできるようになっていてすごいです。ぼくにもこつを教えてほしいです。

続けてもよい。また、友達の取組を参考にしてもよい。

・家庭の仕事の中には、学校でも取り組めるものがあることに気付かせ、取組を学校にも広げられるとよい。

【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

・前回と同様4～5人のグループで行う。

・冬休み前の学習であれば、冬休みの「にこにこ大作戦」の計画を立てる時間にしてもよい

・記録カードを書くときの視点に加え、家の仕事を続けたことで変わってきた自分に気付かせる。

・今後も続けていけるような声掛けをし、朝の会や帰りの会などで活動を確認したり報告したりする場を設ける。

・3学期も「ありがとう いっぱい」の学習を行うことを伝え、継続して自分のことや家のお手伝いに取り組めるようにする。

【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

・児童の家族構成はさまざまであるため、事前に家族の実態を把握し、どの児童も意欲をもって取り組めるように配慮し、単元を構成する必要がある。

・家庭で行う活動が多くなるので、学年通信等を通して趣旨を伝え、家庭の協力を得られるようにしておく。その際に、第6時までに調べ学習やお手伝いの宿題が4回あることを伝えたり、記録カードをあらかじめ冊子にして配付したりするなど、家庭にも学習の見通しがもてるようにしておくとうい。

・本単元は、第9時を終えたところで冬休みを迎えることになっている。規則正しい生活やお手伝いの計画を立てて、冬休みの宿題として取り組ませてもよい。